

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890300068
法人名	有限会社ケアサポートさくら
事業所名	グループホームあかり すばる
所在地	愛媛県宇和島市丸穂甲937-15
自己評価作成日	平成 25年 10月 23日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

光、風、空気、四季を感じながら広々とした開放的な環境の中で生活できる。同敷地内にグループホームが2つ並び、デッキを通じて4ユニットの利用者同士の交流が図れている。また担当ユニットだけでなく、他ユニットの利用者の特性の把握に努め、全職員が支援にあたった。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

地域の回覧板で事業所便りを回してもらっており、各家庭で一部ずつ取ってもらえるよう用意されている。今年で4回目となる事業所主催の「感謝祭」では、中高生や有志の方がフラダンスや演劇を披露して下さったり、焼きそばやたこ焼き等のバザーは、民生委員等が手伝ってくださった。餅まきに使う餅も手作りして、利用者も一緒に丸める等して準備された。秋祭りには、事業所の庭まで牛鬼が来てくれ、地元の子供達が披露する地元の伝統芸能「八つ鹿踊り」も見て楽しまれた。隣接する系列グループホームで地域の方達が行っている「牛鬼大宮サロン」を開催した際には、利用者も一緒に参加してゲームや歌を歌う等して、地域の方達と交流された。

職員からの、「男性だけで話をするのも、たまにはいいのではないか」との提案がきっかけで、隣接する系列グループホームと合同で、男性の利用者と職員が集まり、お話ししながら昼食を楽しむ機会を作られた。集まりを「はまゆう会」と名付け、今後は、喫茶店に出かけたり、釣りに出かけたりと相談しながら、月に1度ほど活動される予定のようだ。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームあかり

(ユニット名) すばる

記入者(管理者)
氏名 伊藤浩明

評価完了日 平成 25年 10月 23日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員全員で、自分たちが目指している介護理念を作り、実践に努めている。年度末に見直しをし、新たな介護理念に変更した。 理念は、職員の目の届くところに掲示している。	
			(外部評価) 法人の「共に生きる」という理念に基づき、ユニットごとに介護理念を作っておられ、さらに、職員でスローガンを決めて理念の実践に取り組まれている。ユニットによっては、「私たちは、利用者の方と共に共感し、信頼関係を築きます。一人一人の力を発揮できるように支援します。」という介護理念を作り、「笑顔を引き出そう」というスローガンを作っておられた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 近くの保育園児がミュージックケアに2か月に1度来てくれたり、芋ほりを一緒にしたり、散歩の途中で立ち寄ってくれたりして、交流が増えている。また回覧板で、32班の地域の方に「あかりだより」を回していただき、事業所での行事や利用者の声を伝える機会が出来る。感謝デーには、160名ほどの参加があった。	
			(外部評価) 地域の回覧板で事業所便りを回してもらっており、各家庭で一部ずつ取ってもらえるよう用意されている。今年で4回目となる事業所主催の「感謝祭」では、中・高生や有志の方がフラダンスや演劇を披露してくださったり、焼きそばやたこ焼き等のバザーは、民生委員等が手伝ってくださった。餅まきに使う餅も手作りして、利用者も一緒に丸める等して準備された。秋祭りには、事業所の庭まで牛鬼が来てくれ、地元の子供も達が披露する地元の伝統芸能「八つ鹿踊り」も見て楽しまれた。隣接する系列グループホームで地域の方達が行っている「牛鬼大宮サロン」を開催した際には、利用者も一緒に参加してゲームや歌を歌う等して、地域の方達と交流された。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 毎月のおかりだよりで、毎月1日を見学・相談日としてお知らせし、地域の方の認知症でお困りの時の相談窓口となるよう努めている。今年度は徳洲会病院の協力により、ホームで公開医療講座を開き、利用者や職員地域の方も参加された。また、認知症の方の力や思いを伝えられるよう、たよりの内容を考えている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 現状を伝えていくことでグループホームを理解いただき、運営推進会議の中から相談窓口になってほしいとの要望を受け、実施している。情報を地域の人に配信し、理解者が増えている。またその中でご意見をいただき、サービスの変更等も行った。参加いただいている他のグループホームとの交流も続いている。</p> <p>(外部評価) 5月から、会議は、隣に開設した系列グループホームと合同で開催されている。会議には、民生委員や地域の他事業所の管理者等も参加されている。又、3名のご家族に参加の協力をいただけるよう案内をされている。事業所見学に地域の医療機関の方が来られた時、「公開医療講座」開催の提案があり、6月には、会議と併せて、「老衰ってどうなるの?」と題して公開医療講座を行われた。回覧板で近所の方にお知らせして、1名の方が参加された。職員は、県内の認知症ケア専門士の交流から、他市の事業所とも運営推進会議の機会を活かして、行き来するよう計画されていた。</p>	<p>今後さらに、地域のいろいろな方やご家族に会議参加を呼びかけ、事業所や認知症等について、より具体的に知っていただけるよう、取り組みに工夫を重ねていかれてほしい。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 広報誌や報告書は速やかに市担当者へ届けて近況を伝え、時には市役所担当者より指示を仰いでいる。運営推進会議に参加いただいている。</p> <p>(外部評価) 成年後見制度を利用するようになった方がおられ、地域包括支援センターの担当者に、「利用するにあたっての手続き」等、アドバイスをいただいた。後見人の方が様子を見に来てくださった時には、まずは、職員が先に、ご本人の最近の様子を報告してから面会していただくようにされている。2ヶ月に1度、介護相談員の訪問があり、「楽しそうに過ごされていますね」と感想をいただいた。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 研修を受け、身体拘束について理解している。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 「家に帰りたい」と言われ、落ち着かない状態になる方に、以前、止めるような言葉かけもあったが、ご家族と話し合って、月に1~2回、ご家族と一緒に外出したり、ご自宅で泊まるような機会を作ることができて、現在は、落ち着いて過ごされている事例がある。ベッドからの転落の危険性のある利用者の方で、夜間時ベッドの4点柵を使用されているケースがある。利用者の自由で安全な暮らしに向けて、話し合いを重ね、今後さらにケアに工夫を重ねていかれてほしい。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 新任者への研修を実施し、全職員虐待防止については理解している。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	(自己評価) 現在、後見人制度を利用されている方がおられ、権利擁護については理解している。また他の制度についても理解しており、必要と判断された場合は支援できる連携体制がとれている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時、十分に時間をとり丁寧に説明し、理解していただけるように心掛けている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 熱心に参加していただき、ボランティアで施設内の大工仕事をしてくださったりしている。利用者との日々のコミュニケーションを通して意見や思いを聞きとれるよう努力し、個別的な支援も行っている。家族とは面会の際情報交換を行っている。家族の要望により、玄関にお知らせコーナーを設置した。 (外部評価) ご家族の来訪時、職員は、お茶をお出しして、ご本人の日常の様子等を報告しながらコミュニケーションのきっかけを作っておられる。前回の事業所主催の感謝祭後、ご家族より、「バザーが無料だと気がひける。有料にしてもいいのではないか」との意見があり、今年は、募金箱を設置された。集まった募金は、公民館や地域サロンに寄付された。ご家族への毎月の書類には、事業所便りと、職員からの暮らしぶりについてコメントを添えて送付されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月のミーティングやユニット会だけでなく、リーダー会を開催。 行事の内容についても職員からの意見で変更することも多い。利用者のことについても種々の意見がでるようになり、日頃から意見が言いやすい環境になっていると思う。 (外部評価) 職員からの、「男性だけで話をするのも、たまにはいいのではないか」との提案がきっかけで、隣接する系列グループホームと合同で、男性の利用者と職員が集まり、お話ししながら昼食を楽しむ機会を作られた。集まりを「はまゆう会」と名付け、今後は、喫茶店に出かけたり、釣りに出かけたりと相談しながら、月に1度ほど活動される予定のようだ。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 基準配置以上の体制がとられ、職員は各自が勤務評価を行い、上司は努力を認めている。 代表者による緊急時対応ができ、夜勤帯の安心感につながっている。またリフレッシュ休暇の設備により、身体的に負担がかからないよう配慮されている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 多くの研修に参加する機会があり、報告会で皆で内容の共有を図ることができている。 新任者研修計画に沿って実践している。 ミーティングでの研修を内容豊かにできるよう努めている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 運営推進会議に参加していただいたり、市のグループホーム交流会に参加し、連携や交流を図っている。 地域密着型サービス協会の相互研修に参加し、サービスの向上とネットワークづくりに努めている。他のホームの行事に参加したり、当ホームの行事に招待している。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所申し込みの際、施設見学をしてもらっている。面接時に生活歴や要望を聞き、職員で共有している。 入所当初は本人が不安にならないよう、できるだけ傍について本人の希望をよく聞くようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価) 施設見学をしてもらっている。 家族の要望や不安、昔話に耳を傾け、安心できるよう努めている。入所当初は家族へのこまめな報告に努めている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価) 本人、家族の要望を聞き、叶うようケアプランに取り入れて支援している。 在宅で利用していたサービス事業所との連携に努めたり、かかりつけ医との連携をとっている。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価) 「自分でできることは何でもするで」と、利用者より積極的に声掛けがある。 何かと一緒にするのが当たり前と考える方が多くなっている。</p>	
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価) 家族にとって来やすいホーム、話しやすいホームを目指している。ホームでの行事や生活をできるだけ多く伝えていくことで、関係や交流を図っている。 受診や外出など、できる範囲で家族に協力をいただいている。 職員と家族が馴染みの関係になっている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価) 遠方の友人が来られたり、自宅に帰って庭を見てきたりしている。また、趣味の先生への手紙や電話のやりとりを支援し、関係が途切れないようにしている。 地域の敬老会へも参加している。歯科や美容院等、馴染みの店や行きつけのところがあられる方はできるだけそちらを優先している。</p> <p>(外部評価) 高速道路が開通し、車での外出が便利になったが、利用者から「どこを走っているのか分からない」との声があり、行きは高速道路を利用しても、帰りは国道等を使って帰るようにされている。利用者からは、「昔はここに の店があった」等、懐かしい話になるようだ。以前、大工仕事をされていた方は、職員と一緒に、のこぎりやかなづち等を使って、輪投げの的と一緒に作ってくださった。農業をされていた方は、事業所の畑で、職員と農作業をされている。他ユニットや隣接する系列グループホームに顔見知りの方がおられる方は、ウッドデッキを通過して自由に会いに行かれている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 他利用者にやさしく声をかけたり、手を引いてくれたりと助け合う場面も多い。 難聴がある利用者同士の会話の橋渡しをし、関われるよう支援している。また、利用者の性格や特性を把握し、トラブルが起きないように努めている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用者が退所された後、ユニット職員で利用者に対する思いやメッセージを手紙に書き、家族へお渡ししたことがある。 利用者がホームで生活されていた頃の写真を家族に返し喜ばれた。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日頃よりコミュニケーション、会話に努めており、気づいたことは報告し、できるだけ叶えている。 利用者本位には考えているが、できる限り利用者の言葉で伝えていただくようにしている。 (外部評価) 事業所では、ご本人の思いや意向を把握するため、年に1度、ご本人とご家族を交えてサービス担当者会議を行うことを始めておられる。介護度が重度で、希望を表わし難い方のご家族から、ご本人は、お花が好きだったことを教えていただき、コスモスを見に出かけられたことがある。利用者のいい笑顔がみられたようだ。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 必要に応じて家族の方にも生活歴をお聞きしたり、入所当初に本人、家族、ケアマネジャーから情報を得るようにしている。新しい情報はシートに記入している。 家族に協力依頼し、利用者の昔の写真を持ってきていただき、写真を見ながら利用者の昔の様子をお聞きしたこともあった。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 朝夕の申し送り時間に徹底して情報を共有し、本人に合わせて暮らしていただけるよう、チームケアに努めている。毎日の記録にもきちんと現状を残せるよう努めている。 毎月のユニット会でモニタリングし、情報を共有している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 月1回のユニット会で担当者がモニタリングし、職員全員でカンファレンスし、課題の把握とケアの在り方について検討している。必要に応じてその都度ケアプランを変更している。また担当者が認定更新ごとにアセスメントし、本人、家族、職員で家族カンファレンスを実施し意向確認して介護計画を作成している。</p> <p>(外部評価) 基本的に、6ヶ月毎に計画の見直しをされている。日々の介護記録である「24時間支援記録」に、「ケアプラン実施の有無」について評価する欄を設けておられ、を付けて実施状況を示すようになっている。モニタリングは、ケアマネジャーが3ヶ月毎に行っておられる。見直した計画は、ご家族の来訪時に説明したり、近所にお住まいのご家族には、ご自宅にうかがい、説明するようなこともある。</p>	<p>利用者から得た情報を介護計画に採り入れて、利用者が希望する暮らしをチームで支えていかれてほしい。さらに、事業所の介護理念等とも照らし合わせながら、取り組みをすすめていかれてほしい。</p>
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 介護計画の実践を24時間シートの記録に残し、1日の中で取り組むことができるようにしている。また、新たな課題が出てきたときには、記録の様式を工夫したり、随時担当者会議を開き、介護計画を見直している。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) リハビリ体操の習慣化や個別のリハビリ等も取り入れている。体操や運動の種類も増えている。老人サロン(地域の高齢者の集い)の際、会場を提供し利用者と地域の方が一緒にゲームや体操等共に時間を過ごした。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 保育園、小学校との交流が増え、感情豊かになられている。地域の魚屋、肉屋、八百屋、パン屋に来所してもらい交流している。公民館や保育園からは資材をお借りすることもある。ボランティアによるコーラスやカラオケ、詩吟など楽しませてもらっている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) かかりつけ医や専門医(眼科・整形・皮膚科等)の通院は、家族の協力のもと継続している。協力医への変更は十分体調も安定し、家族からの希望により実施している。体調の変化についてはすぐに対応したり、協力医の協力も大きい。受診機関について家族とよく話し合い、利用者の状態に合わせて受診機関を変更することもある。</p> <p>(外部評価) 協力医療機関を主治医とされない方も、風邪の症状等がある時やいざという時等は、診ていただくこともあるため、利用者は全員月に1度、協力医療機関の往診を受けておられる。併設の系列グループホームで往診がある時にも、気になる利用者の状態について相談できるようになっている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 看護師1名、准看護師2名おり、常に介護職と看護職が情報を共有し、協働できている。体調面の変化は、まず看護職に相談している。訪問看護との連携は、記録や口頭により実施している。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 入院時にはホームでの生活状況等の情報提供を行い、退院時にはカンファレンスに参加し、退院後の留意点など指導を受けている。また入院中はできるだけ面会に行っている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 早めに対応し、家族とも連携をとり、終末期には主治医を交えてカンファレンスを行っている。医療連携における連携連絡体制を整えている。</p> <p>(外部評価) 入居時には、「重度化及び看取りに関する指針」に基づき、説明をされ、ご本人やご家族の意向等は、時期をみて話し合うようにされている。利用者の状態が思わしくなく、今後のことについて話し合った際、ご家族は事業所での看取りを希望され、ご本人も「私も歳だから最期までここに居たい」と望まれた方がおられる。以前、看取りを支援された時、食事が少なくなった方に、経腸栄養剤を飲んでいただいたり、「スポンジで口を濡らす」等して栄養や水分補給を支援されたが、ご本人がお好きだった炭酸飲料をご家族が用意され、ご本人が喜んで飲まれた様子を見て、利用者のごことを知る大切さを学ばれたようなこともあった。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命救急講習を受講している。 リスク判定と対策により、事故発生の予防に努めている。 緊急時の対応については、その都度指導と訓練を行っている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年3回の避難訓練(地震、火災、夜間)を実施。消防署からの助言もあり、最悪の想定での訓練も実施している。宇和島市の避難訓練にも参加し、地域での体制にも対応できるよう配慮している。 夜間停電時の対応としては、LED点滅ライトを取り付けた。保存食は整備している。	
			(外部評価) 10月に、隣接の系列グループホームと合同で夜間の火災を想定した避難訓練を実施された。消防署より「最悪のケースを想定して訓練してはどうか」との提案があり、窓の鍵やカーテン等を全部閉めた状態で、火元から一番離れているユニットに避難する訓練が行われた。利用者の避難確認は、居室入り口のネームプレートを裏返して、避難済の目印にするようになっている。事業所が所在する地区の避難場所は、小学校となっているが、管理者は、地域のニーズも探り、意見等をうかがいながら、事業所を地区の一時避難場所となるよう、発信したいと話しておられた。運営推進会議時に、民生委員から「消防団の方に訓練時の参加を依頼してはどうか」と提案いただき、お願いに行かれることを予定されていた。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 認知症が進行した人の尊厳を守るために、他利用者の目線にも気を配るようにしている。ゆっくりやさしく耳元で声掛けすることで、プライバシーや尊厳を守っている。一人一人をよく理解し、個性を尊重し違いを把握したうえで、個別の接し方やケアの方法に気をつけている。	
			(外部評価) 職員は、利用者によく話しかけておられ、例えば利用者が歌を歌い出すと、手を止めて手拍子をする等、利用者のペースに合わせておられる様子がうかがえた。調査訪問時、利用者の方が歌を歌って聞かせてくださり、歌い終わると、みなは、拍手をされていた。利用者の方は、「ここにおったら何でか気が楽じゃ」「楽しいですよ」と笑顔で話してくださった。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 地域行事への参加も、本人の希望を重視することで、じっくり参加することができた。 飲み物を選んだり、食事の場所、希望の献立や外出の希望等も、日々の会話の中から表してもらったり、叶えている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 得意な分野で活動できるよう声掛けしたり、場を設定している。利用者に寄り添い、起床や食事などは本人のペースや体調にあわせたり、希望に沿った支援を行っている。別ユニットで過ごす利用者もおられ、好きな所で過ごせるよう見守っている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ひげそりの支援や洋服選びのお手伝いをしている。白髪染めや行きつけの美容院へ行くなど、支援している。母の日にはマニキュアを塗る支援をしたり、化粧水などの化粧品も必要に応じて買いに行っている。時季の洋服の購入に、利用者と一緒にいくこともある。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 希望があればメニューを変更したり、その人に合わせた調理方法を工夫している。時には弁当や仕出しを頼んだり、外食に出かけることもある。また室内だけでなく、デッキや芝生で食事をしたり、畑でできた物を調理して収穫を楽しんでいる。お月見等季節に合わせて、食事を楽しんだ。	
			(外部評価) 調査訪問時、カウンターキッチンで、職員と対面で会話しながら団子汁に入れる団子を丸めている利用者がみられた。昼食のお芋ご飯は、事業所の畑で収穫したサツマイモを使って作っておられ、「サツマイモは、肥えとる土ではいかんのよ」等、利用者は、食事しながら教えてくださった。食後は、男性と女性の利用者が一緒に食器を洗ったり、拭いたりされていた。食材は、注文すると配達してくださり、魚は週3回、魚屋さんが車で売りに来られており、利用者と職員で選んで購入されている。週に1回は、利用者も一緒にスーパーに買出しに行けるよう支援されている。朝食は、週2回ほどパン食の日を設けているが、パンがお好きな方も多いため、パン食の日数を増やされた。昼・夕食の献立は、職員がホワイトボードに書いて壁に掛けておられ、ホワイトボードが見える場所のソファに座って、利用者同士でメニューの話がされることもあるようだ。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 全職員でメニュー作成にあたっている。夏場にはお茶の時間を増やして脱水予防に努めたり、水分量、尿量、体重の増減等の把握に努めている。また利用者の特徴に合わせて、水分や栄養が摂れるよう食事内容を検討している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯科医の訪問診療がある。食後声掛けし、口腔ケアを実施し、できない人には介助している。定期的にポリドントを使用したり、利用者の状態に合わせて通院し口腔内の汚れを取ってもらったりしている。医師より口腔ケアの方法や、助言などいただいている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日中は車いすの方もトイレでの排泄介助をしている。仕草や動作を見て、トイレ誘導の声掛けをしている。当初は昼夜おむつを使用していた方が、日中は布パンツになった例もある。排泄の記録により、排泄パターンを把握している。また、デッキや外にいる時に、外からトイレに入れるように扉を設置している。	
			(外部評価) 入居時、紙おむつを使用していた方も、昼間はトイレ誘導して支援し、ほとんど失禁されることがなかったことから、現在は、布パンツにパッドを使用して過ごされている方がいる。尿意を訴えられることはないようだが、職員は、仕草等のサインを見落とさないようにトイレ誘導されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分補給をまめにしている。リハビリ体操や散歩の声掛けをし、運動ができるようにしている。排泄の記録により、便秘の方には医師の指示で服薬等を行い、コントロールしている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 10:00～17:00の間、利用者の希望に合わせて入浴している。人数や回数の制限はない。必要に合わせて足浴や半身浴をすることもある。寝たきりの方でもリフトで入浴できる。しおり(新設ホーム)に特浴があり、必要に応じて利用している。	
			(外部評価) 利用者個々に入浴の希望時間を聞いて支援しておられたが、職員は希望時間の傾向がわかり、現在は、その時間頃に声かけして入浴できるよう支援されている。入浴がお好きな方は、毎日入られる方もある。車椅子を使用する方は、4月から、隣接する系列グループホームの機械浴を使用して、入浴できるよう支援されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間一人で不安な時には、スタッフの近くのソファで休息される方もいる。昼夜逆転しないようカーテン開閉等にも気をつけながら、室温や灯り、空気の乾燥の調整をしている。日中休息をとりたい時には自由にとっていただいているし、誘導や介助している。利用者本人と相談し、眠りやすくなる薬を使用している方もいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 全職員で服薬の準備し、夜勤者が翌々日の準備をすることで2重チェックをしている。服薬が変更になった時には日誌になぜかわったのかも記入し、職員で周知徹底している。薬の写真を貼って視覚でも確認できるようにしている。服薬名を覚えることで、目的や副作用も理解している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常の洗濯物たたみや洗い物、食器拭き、段ボールまとめ、水やり、掲示物作成、歌を歌うなど、ご本人の仕事として進んでいただいている。今では声掛けしなくても取り込んでたまたまれている。気分転換のために外出する機会も多い。月に1回男性だけの会(はまゆうの会)を実施している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 広告を見てお店に買い物に出かけたり、お彼岸にお墓参りに出かけたり、日々の買い物に出かけたり、皆一緒に気分転換のために外出することも多い。 また、家族と一緒に外出・外食したりしている。夏祭り、秋祭りなど、見物に出かけている。 (外部評価) 事前に計画を立てて、三間町にチューリップやコスモスを見に行かれたり、夏にはユニット毎に宇和の観音水や薬師谷のソーメン流し等にも出かけられた。2ヶ月に1度、地元の図書館に行くことを支援されており、館内では、図書館員の方が返却や借りる本を選ぶ等、利用者のサポートをしてくださる。管理者は、利用者の「介護度の違い」から、ご本人の行きたいところへの外出が少なくなっていると感じておられ、今後は、「元気な頃、お好きだった場所や喜ばれていたこと」等を探り、個別で出かける機会を作りたいと考えておられた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出の際、欲しいものを自分で買われ、支払っている。小遣いを持つことで安心感につながることもあるため、自分で少額の小遣いを持っている方もいる。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望時は事務所の電話を使い、電話をかけるお手伝いをしている。 手紙や年賀状の代筆や投函する支援をしている。 また、定期的到手紙を出している方もいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>前面に広い芝生や景色が見られ、夕焼けまで楽しむことができるようになってきている。実際に暖かさや寒さを肌で感じて、本人の意思で外への出入りができる。広さが利用者の方にとってかけがえのないものである。また、他ユニット、新設ホームとの行き来も大事な気分転換になっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>玄関先の花壇には、利用者と職員と一緒に植えた日々草等の花が咲いていた。日当たりのよいウッドデッキでは、職員と利用者が一緒に洗濯物を干しておられた。時には食事したり、お茶等も楽しまれている。玄関には、子供用と大人用のスリッパが用意されており、スリッパの裏側を合わせるようにして収納されていた。居間の窓からは、木々や芝生、畑等、事業所の庭の様子が見える。又、事業所は、高台に位置しており、市内の建物や海が一望できる。廊下の突き当たりには、椅子とテーブルを配置し、利用者と職員が2人で座ってお話をされる様子が見られた。もう一方のユニットの廊下の突き当たりは、「図書コーナー」を作っておられ、定期的に図書館で本を借りて入れ替えておられる。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>図書コーナーの設置は、興味のある方がゆっくり楽しめる空間になっている。キッチンのカウンターやデッキ、またソファの配置により、思い思いの場所で過ごされている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>使い慣れたタンスやソファ、テレビ、CDなど持って来られ使っている。お位牌や家族の写真などを飾っている方もおられる。家族が描かれた絵画や自分の描いた塗り絵を貼って、部屋を明るくしている方もいる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>各居室には洗面台が設置されており、電気かみそりやドライヤーを用意されている方も見られた。ご家族の写真を飾ったり、人形がお好きな方は、人形のぬり絵の作品を壁に貼っておられた。人形やぬいぐるみがお好きで飾っておられる方もいる。居室からもウッドデッキに出ることができ、夏にはミニトマトを鉢植えて育てておられた方もいる。居室にジョウロを用意して、ご自分で水遣り等のお世話をされていたようだ。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>ベッドの位置やシルバーカーの位置など、本人の力に合わせて設定している。また、靴の調整や状態に合わせてイスを変更することもある。トイレの看板は分かりやすいよう手作りで設置した。</p>	